

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 パートナーシップのまちづくり推進課

会議の名称	平成29年度第1回パートナーシップのまちづくり推進会議		
開催日時	平成29年7月19日(水) 午後7時00分～9時25分		
開催場所	ひと・まちプラザ 3階 集会室		
出席者	<p>【委員】河西副会長、牛山副会長、長田副会長、義経委員、篠原委員、今井委員、野沢委員、山田委員、依田委員、嘉瀬委員、八幡委員、小池委員、入倉委員、柳平委員、佐藤委員、池上委員、鷹野原委員、田村一司委員、藤森委員、榎原委員、宮下委員、矢崎委員、伊藤委員</p> <p>【市側】柳平市長(会長)、樋口副市長、伊藤総務部長、柿澤企画部長、小池市民環境部長、竹内健康福祉部長、五味産業経済部長、篠原都市建設部長、牛山子ども部長、平出生涯学習部長、北原議会事務局長、田中会計管理者</p> <p>【事務局】 田中パートナーシップのまちづくり推進課長、国枝コミュニティ推進係長、富澤コミュニティ推進係主任、貝瀬コミュニティ推進係主事、内山ちの地区コミュニティセンター所長、五味宮川地区コミュニティセンター所長、吉田米沢地区コミュニティセンター所長、木川豊平地区コミュニティセンター所長、矢嶋玉川地区コミュニティセンター所長、立木泉野地区コミュニティセンター所長、小池金沢地区コミュニティセンター所長、小平湖東地区コミュニティセンター所長、北澤北山地区コミュニティセンター所長、守屋中大塩地区コミュニティセンター所長、牛山市民活動センター長、小平企画財政課長、原田企画係長、岩崎地域戦略課長、両角情報政策係長、井出地域福祉課長、武居福祉21推進担当、長田美サイクルセンター長、竹内美サイクルセンター課長補佐兼環境自治会担当、五味子ども課長、今井子ども係長、藤森生涯学習課長、伊藤生涯学習係長、田中男女共同参画担当、丸茂茅野市社会福祉協議会事務局長</p>		
欠席者	田村政之委員、山田教育長、東城消防署長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
会長	<p>1 開会(司会進行: 田中パートナーシップのまちづくり推進課長)</p> <p>2 市民憲章唱和(発声: 長田幸子副会長)</p> <p>3 委嘱書の交付</p> <p>4 会長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。今日関東甲信越で梅雨明けしたとの宣言がなされました。この地においては空梅雨だったという気がします。もう少し水が欲しいと思ったところがございます。北九州を始め局地的に大雨の災害が起こったり、水不足のところがあったりと非常に不安定な日本列島だったと思います。北九州で被災された皆様にはお悔やみを申し上げたいと思います。梅雨が明けたからには、夏らしい夏になって欲しいと思うところがございます。</p> <p>本日はお忙しい中、お疲れのところ、平成29年度第1回パートナーシップのまちづくり推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。日頃より協働のまちづくりにお力添えをいただいていることに対して改めて感謝御礼を申し上げます。ただ今委員委嘱をいたしました。2年の任期ということになりま</p>		

すがどうぞよろしく申し上げます。

若干私の方からお話をさせていただきたいと思います。平成8年にパートナーシップのまちづくりがスタートして20年が経過しました。また平成18年に各地区にコミュニティ運営協議会が設立されてから10年が経過しました。そんな節目の年であり、今年は第5次総合計画を策定していく大切な年になります。昨年の推進会議において、今年はパートナーシップのまちづくりをしっかりとふりかえり、今の時代に合った協働の仕組みとはどういうものか、あり方を検討していこうとなり、そのように取り組んできたところです。まだすべてが集約されているわけではありませんが、推進会議を通じた何度かの議論の中で方向性を出していきたいと思っています。20年前、分野別市民ネットワークの皆さんを中心にパートナーシップのまちづくりの第1ステージがスタートしました。福祉・環境・教育の分野において、いかに市民の声がまちづくりに反映されるか、また積極的に市民が主体となってまちづくり、人づくりに参画していくか、その仕組みとして取組が始まりました。皆さんもご存じのとおり福祉の分野、環境の分野、子育て教育の分野で全国に先駆けた様々な取組がなされ、現在に至っています。そうした取組を各地区で広げていこうということで、各地区にコミュニティセンターを配置し、コミュニティ運営協議会を組織していただき、地域における協働の仕組みづくりに取り組んできました。私の感想としては、第1ステージで分野別市民ネットワークが取り組んできたこととは異質であり、私がちょうど市長になったときで非常に難しく感じました。行政にとっても市民の皆様にとっても分かりにくく、どう展開していけば良いかわからない難しい取組であったと今でも思っています。そして10年が経ちようやくどういう取組をしていけば良いかが分かり、地についてきたと思います。そして、昨年ゆいわく茅野がオープンしました。今の時代の中でどういう協働の仕組みを広げていくのか、地域コミュニティ、分野別市民ネットワーク等々に参画していないあらゆる市民の皆様がどうまちづくりに関係していくか、そんなことも必要になってくる時代だと思えます。私的には第3ステージが始まったのだと思っています。また、第1ステージ～第3ステージは積み重なっていくものではないと思います。第1ステージで取り組んだ分野別市民ネットワークは今でも連続と続いています。そして10年前に始まったコミュニティの取組も連続と続いています。第3ステージとして新たな展開が始まりました。これらは積み重なるというよりも縦に同時進行していくのだと思っています。この20年間で時代は大きく変わってきました。1つは社会構造が変化してきました。人口減少・少子高齢化の時代になっています。特にパートナーシップのまちづくりをしていく上では、人口減少よりも高齢化に伴い単身世帯が増えてきていることがポイントになると思っています。生活環境も変化してきました。極端に変わってきたのは、ICT、IT技術の進歩だと思っています。それによって「個」で生活する時間が非常に増えたのではないかと思います。例えば昔であれば集まって議論をして、情報の共有・意識の共有を図っているような取組をしてきました。しかし今はLINEやフェイスブックがあり、集まらなくても議論ができ、あえて集まる必要がなくなりました。それは本当に大きな変化だと思いますし、若い世代が単身化していきます。これはこれからのまちづくり、人づくりをしていく上で絶対に押さえておかなければならないポイントだと思います。そうした中、若い世代が組織や集まりに入っていないということは皆さんも感じていることだと思います。なかなか組織の若返りが出来なかったり、新しいものを立ち上げようとして

も人が集まらないというところに現れてきていると思います。一方でこの20年間で職員のパートナーシップのまちづくりに対する意識も薄れてきています。さぼっているわけではありませんが、発足した当時から比べるとやはり意識が薄くなってきたと感じています。そういう状況の中でどうやって協働のまちづくりをしていくのかということが大きなポイントになると思います。これから数回の会議の中で議論をしていただくわけですが、やはりそういうことを念頭に置いて議論をしていく必要があると思います。もっと分かり易く言えば、ストレートに過去に戻るのではなく、そういう状況の中でどのように協働の仕組みを作っていくかということがポイントになってくると思います。また言い方を変えれば、パートナーシップのまちをつくるのが目的ではないと常々思っています。パートナーシップのまちづくりは手段だと思っています。目指すべきまちの姿があります。福祉・環境・教育、産業経済や都市基盤もそうです。良いまちにしていくために協働という理念や仕組みは絶対に必要です。それをどういう協働の仕方をするかで、目指すまちを形にしていけるか、ということだと思っています。今日お集まりの皆様は、本当に良いまちを作っていこうという思いは変わらないと思います。どうやったら良いまちを作っていけるのか、そういう観点でぜひ熱い議論をしていただくようお願いしまして、会長のあいさつとします。お世話になります。どうぞよろしく申し上げます。

5 自己紹介

6 会議事項

(1) 審議会等の会議の公開について

＜資料の説明＞ 審議会等の公開理由、基準等について

会議は公開、また会議録は、個人名は出さないが公開している。本会議もそのような形で進めたいが、よろしいか。

(承認)

(2) 副会長の選出

規則により1号委員、2号委員、4号委員から各1名の副会長を選出することとなっています。委員の互選となっていますが、どなたか私がやるという方はいらっしゃいませんか。

(「事務局腹案でお願いします」という声)

事務局腹案をというご発言がありました。案をお示ししてよろしいでしょうか。では、事務局お願いします。

事務局としましては、1号委員から河西朝雄さん、2号委員から牛山斐雄さん、4号委員から長田幸子さんを推薦させていただきます。

只今、1号委員から河西委員さん、2号委員から牛山委員さん、4号委員から長田委員さんを推薦させていただきました。よろしければ拍手をもってご承認ください。

(承認)

事務局

会長

事務局

会長

	(副会長となった3名、席を移動)
会長	改めて一言ずつお願いいたします。
副会長	今副会長に選任されましたが、何年か継続しているのでお鉢が回ってきたと思います。あまり真面目にやってこなかったのが、今年は少し真面目にやらないといけないと心配していますが、ご協力をお願いいたします。
副会長	商工会議所の方から是非と言われ、またやってきました。よろしくお願いいたします。
副会長	私は平成19年からずっとコミュニティに携わってきましたので、そのことがこれからの推進会議の中でお役に立つことがあればいいなと思っています。よろしくお願いいたします。
	(3) パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けて
事務局	①茅野市における公民協働の歴史と地域を取り巻く現状(時代背景)について ＜別紙2、資料1から資料7の説明＞
事務局	②今後の推進会議の進め方について ＜別紙3の説明＞
会長	この会議の進め方につきまして、ご説明をさせていただきました。今日も入れて5回の中でまとめができればと考えておりますけれども、進捗状況によっては5回では済まない場合もあるかと思えます。基本的な組立て方と言いますか、取組方について皆様のご意見をお聞きしたいと思います。2回、3回とグループ検討を委員の皆様のみならず、それぞれのお立場の方も参加していただき掘り下げて行きたいという組立てでございます。組立てですけれども、分野別と地区コミュニティを分けて取り組んでいけばどうかということでございます。なかなか昨年までの会議の中で、運協の方と分野別の方とでは課題が違います。共通することもあります。すり合わせが難しい部分というのを感じたのが正直なところであります。ですので、今回あえて分けて掘り下げてみたらどうかという案でございます。それも含めまして皆さんからご意見をいただきたいと思えます。
委員	パートナーシップのまちづくり推進会議で今後11月までの間に5回会議を持ってということなんですが、内容としては良いのですが、本当でしたら去年1年かけてできれば良かったかと思えます。とても11月までに5回、もしかしたらもっと増えるかもしれないというお話ですが、どんぐりプランの方の策定もありまして、1ヶ月に1・2回の会議があれば、その他にも委員長会等の会議もありますので、週に3・4回家を空けているとプランができて家庭が壊れます。なので、内容は良いと思えますが、とても11月までの間にこれをやるとい

委員	<p>うのは無理かと思います。それとも一つ、パートナーシップのまちづくり基本条例の中には住民自治とは合意結成のプロセスが大切であると言っているの で、この短時間の中でどれだけプロセスを共有し合ってやっていけるかと言う 所にも疑問を持っています。</p> <p>ふりかえりということですが、この分野別のところで福祉21についても円 卓会議等でふりかえりはやっていないように思います。ここでワークショップ をやると言っても、ふりかえりができていないのに、ここで何を話して良いのか 分からない気がします。ですので、この作業と言うのは3分野のところは住民と 共に職員と一緒にふりかえりをしてきていないのではと思います。先ほど依田 さんがおっしゃったとおり、やはり昨年これをやろうと決めた時点ですぐに始 めて欲しかったです。ここで急に5回の会議の中でまとめてプランに入れてい くのは不可能ではないかと思います。</p>
井出地域福祉 課長	<p>福祉21の部分でふりかえりがまだできていないと言うことで、これにつ きましては事務局の方で進め方が上手くできていなかったと言うこともあります が、やはり計画策定と並行で行っていたこともありまして、ふりかえりの方が できていなかったことは非常に反省材料だと思います。これから8月・9月での推 進会議がありますが、それまでの間にふりかえりの方のお話もできれば、そこ で集中的にお話を差し上げて、この会議の方に臨んで行ければと思います。いか んせん計画作り等の並行もありますので、そこにつきましては委員さん方のご判 断もあろうかと思っています。</p>
小平企画財政 課長	<p>現在の総合計画・市民プランでございますが、推進にあたりましてご理解、ご 協力をいただきありがとうございます。次の総合計画に向けて先程からお話が ございますが、全体スケジュールとしまして事務局として考えておりますのは、 来年の3月までに計画の策定を予定したいところでございます。この計画でご ざいますが、これまで総合計画につきましては、基本構想、基本計画という2段 構成になっております。基本計画につきましては、各分野の計画をカートリッジ の様にあてはめて、基本計画として構成させていただきたいと思ひます。スケ ジュールが大変タイトではというお話であります。市民の皆さんとの議論の中 で若干スケジュールが遅れるということも想定しておりますが、できる限り3 月の策定に向けて皆さんと一緒に策定を進めさせていただきたいと考えてお りますので、ご協力をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>今言われた様に計画は分かるのですが、来年の3月までにやるという事は時 間的にも、もっと吟味して練ってやっていただいた方が良いのではないかと思 います。結局、美サイクル茅野もふりかえりをきちんとやっていないので、言 われても何をやって良いのか分からないので無理があるのではないかと思ひ ます。あまり急がないで、もっとゆっくりやった方が良いかと思ひます。</p>
小池市民環境 部長	<p>環境の方で、美サイクル茅野のことでお話をさせていただきます。清掃セン ターと美サイクル茅野の方で定期的にお話合いをされていると伺っています。そ して、今おっしゃられている様にふりかえりができていないということではあ りますけれども、日々日常の中での見直しと言ひますか、話し合いをやっていただ</p>

いていると思っています。ふりかえりができないという所は、計画そのものなのか、環境分野での今までのパートナーシップの取組自体のことでしょうか。その辺は後者の方でお話させていただきますが、大切な事は先に向かってこれからの取組をどうしていくかということだと思っておりますので、今までの取組を市民の方々とお話し合いの中から将来に向けての議論をこれからしていきたいと思っています。できていないということですが、ここで何枚か資料がありまして、その中にも記載がございます。この不足の部分の議論していくということではないかと思えます。

委員

別紙3に書いてある内容で、この目的がどんなパートナーシップのまちづくりの取組が理想なのということですが、他の時にも感じるのですが、現状をどうしたいのか、現状から未来をどう持っていきたいのかというギャップについて、我々市民の立場からの意見として話をするべきかと思っています。このミーティング自体もたくさんの方が集まって話をすると言う事で、今後このパートナーシップの政策提言をする時の方向性を揃えていくという様な話し合いであれば意味があると思いますが、その方向性は行政が決めているので、それを下したのに対して修正を加えて、どちらかというところの議論はどんなパートナーシップをするかという活動の方にフォーカスが当たってしまうと、パートナーシップの活動を活性化するには、政策提言をする市民団体とパートナーをする行政ということでない、対等な関係を築けないと思います。何が言いたいかということ、先程から準備の話がありますが、市民としてこの市を10年後どうしたいのかという事に対しての方向性を揃えることによって市民団体のリーダーシップを無駄遣いしないこと、パートナーシップに対して何をどうしたいのか方向を揃えることは良いことだと思います。私が提案したいのは、どんな活動に取組むかにフォーカスを当てた方が良いのではないかと。どんなパートナーシップにするかとのふりかえりをするかよりも、方向性を決めるということにミーティングの主旨を合わせた方が良いかと思えます。

委員

先程から話が出ているパートナーシップのまちづくりのふりかえりと5次総合計画を並行して進めるということで、一つはスケジュールの問題が出ていますが、もう一つ心配なのが、5次総を作るときはパートナーシップの手法を用いて作る訳ですね。第4次についても、みんなで作るみんなの茅野市ということで市民プランを作っていたのですから、こういったパートナーシップを作るかということを持った上で第5次を進めないと、結局そこはいろんな課題を持ちながら進めることになるので、本当はパートナーシップのふりかえりを今後はこうしていくということを行政と市民で確認し合って、その方向で行きましょうとしてからやらないと並行は難しいかと思えます。実際に今どんぐりプランの策定委員をやっているのですが、第4次の際は円卓会議があり全体の方でやっていたのですが、今回は先程お話があったようにカートリッジの様に埋めていくということですので、どんぐりプランだけの策定だけになるのですが、上から下りてきた物に対しておかしいと言ったとしても、もう決まったことだからとなってしまっていて、その時にパートナーシップと違うと言おうにも言えず、今実際に策定がスタートしているのですが、ものすごいスケジュールが出てきていて、次の部会時にはこれを決めなければいけない、でも委員からはもうちょっといろんな人の意見も聞きたいという時に、そこはパートナーシップで

やるのだから時間をかけて聞きましょうと言えない訳です。本来、パートナーシップはどうかという事をしっかり決めて策定していかないと進まないのかなと思います。それが揺らいでいると、パートナーシップとはこういうものだと定着してしまっていて、本来進むべきところに行きつかないのかなと思います。それは市民だけでなく行政のアンケートを見ても、市民との乖離が出ていますので、そこは確認してから第5次を作った方が良いのかな、それを確認して作ることで次々のステージに行けるのではないかと考えています。

五味こども課長

委員さんからご指摘いただきまして、非常にタイトなスケジュールでお願いをしている訳ですが、基本的にはもう少し十分皆さんのご意見を聞いてから決めていきたいということであれば、そういう方向性で考えていきたいと思えます。目安としてはスケジュールを示させていただきますが、そこは十分に市民の皆さんのご意見を聞きながら計画策定の方は進めていきたいと考えております。

委員

運協、地区行政をやっている立場で今日初めて出させていただきました。5回が短いか長いかは判断しかねますが、少なくとも皆さんが懸念されている問題をお互い認識を共通化して改善を提案していくことについては、膨大な時間が必要かと思えます。私の場合は、役員が単年度任期で行政に関しては漸く地についてきたかなと言うことでまだ新米ではありますが、各地区共通の問題認識は持っているつもりです。そう言った意味で運協としては、お互いの行政上の問題認識を共通化してそれに対する改善策、パートナーシップのまちづくりをまとめあげるとするのは、回数は別として時間が欲しいという気がします。地区の皆さんは多分同じ認識をお持ちかと思えますが、行政として価値観の多様化や高齢化、福祉の問題等様々なものを良い形で組み込んでいきたいと思っています。そのためには全体的にもう少し時間が欲しいという考えがございます。

委員

別紙3ですが、8月22日に「運協とは何か」をやり、20日経ったところで「運協で何が出来るか」を決めるとのことですが、我々既に今年頭から動きだしている中で、地区によって運協に違いがあることは皆さんもよく分かっていると思います。それを擦り合わせるような方向で会議をやるというのは意味があるのかなと思います。それぞれの突出した部分は運協会長連絡会のなかでお知らせすれば良いことであって、他の方にもお示し出来るような話でない、ただ話を聞くだけで全て終わってしまうと思います。今年から運協の方にもお金が出るということで、1月当初から具体的に動き出しています。そういう部分を見ていただくことも他の地区からすれば重要なことと思うのですが、10地区でやっていることを今日みたいに全て資料にすると膨大になるだけで、各地区でやるべき時間をこういった資料作りに精力を使い果たしてしまうのは、無理な時間の使い方かなと思います。特に運協の案件の8月・9月のこの時期に集まりをやる意味がどれだけあるのかなと疑問に思います。10月に予定している成果をお話する様な形でないと、力が入った議論や情報交換ができないと思っています。どちらかと言えば、年の初めに新しい運協のメンバーに「運協とは何か」を知ってもらって、今頃こうして行きましょうという話なら分かるのですが、この時期にこの話し合いだとそれぞれの足を引っ張ることになるかと思えます。

事務局

運協さんの進め方については書き足りない所がございます。運協は発足当時、作るのありきで進められてきて、何のために必要だったのかという議論がされてこなかった経緯があるようです。そこで一度仕切り直しをしてご理解をいただいた上で進めていただきたいということで、こういった議論が必要だという想いで、このような計画にさせていただきました。タイミング的な部分で、1月早々にやれば良かったということは、本当にご指摘のとおりだと思います。しかしながら会議がここまで長引いたのは、本来昨年の会議の中では、年内に各分野・各運協さんの団体の中で検討を終わらせていただいて、年明け早々に意見を持ち寄って議論する予定でしたが、それが遅れたことによってこのような日程になりましたので、ご理解いただきたいと思います。運協のあり方検討の進め方につきましては、ステップを踏んで検討をする考えでございます。ステップ1として各地区の状況を知ることによって刺激や勉強になり、ステップ2でなぜ今までなぜ運協が機能していなかったのかを明らかにしていき、ステップ3として「運協とは何か」区長会と運協の関係を整理し議論します。ステップ4として、地域課題の具体例を検討していき、ステップ5で運協の成果を発表・紹介することによってどんな解決策を図っていくかを検討していく、こうした組立をこれから詰めていきたいと考えております。

委員

先程の質問に対する市民環境部長の答えの中に、ふりかえりは今まで十分やってきた、問題はこれからだという発言がありました。同じ様に市長の開会の挨拶の中にも、これからの手法はこれまでの積み重ねにさらに積み重ねるのではないとあり、どういうことかなと聞いておりましたが、各々の団体の活動が続いているが、これからは同時進行的という表現をお使いになっていましたが、第3ステージについては新たな取組なんだという発言があり、市長、部長、一貫したご意見だと思いましたが、各団体の委員の皆様のご意見を聞くと、ふりかえりについてパートナーシップの手法に若干の懸念があるという想いが強くしました。そこで1点質問ですが、これまでの総合計画に係る部分での策定過程が、期間的にこういったご意見があることで延びたことがあったのか、もしそう言う事実があったとすればどういう理由で延びたのか、分かりましたらご説明いただきたいと思います。

柿澤企画部長

総合計画の期間については通常10年ということですが、第2次総合計画の時は12年間というような切り口でした。それは原田市長の時は任期に合わせて6年ごとの切り口にしていましたが、第3次総合計画は平成7年から10年ということで計画しました。当時、諏訪地区6市町村の合併問題もあり、改訂作業に入らずに2年間市長の任期まで延ばし平成19年までもっていき、柳平市長になり平成20年から10年間の計画が作られた、このような経過になっております。

会長

きっちり10年ということではないということです。

委員

運協のことですが、最初平成18年にできた時に、これは何だろうと思い市長に「これは行政主導ですか？住民主導ですか？」と伺いました。そしたらあくまでも住民主導だとおっしゃられました。なので、住民がまちづくりの為に各地区

で運協というものを動かしていくものだと思っていましたが、なかなかうまく動いて行かないと言う中で、一昨年の推進会議の時に運協の3部会と分野別の3部会の繋がりが無いと言う事がありました。その時ワークショップをやった結果を運協の方に落していったかと伺ったら、やりっぱなしということで繋がってっていない、そう言う所からパートナーシップのまちづくりが上手くいっていないのではないかと思います。この推進会議が何だろうと考えた時に、条例に基づいて住民が安心・安全で茅野市で住んでいられるまちづくりを、行政と住民がパートナーを組んでどうして行けば良いかを考える推進会議だと思うのですが、今までそういうことをやらずにパートナーシップの推進大会をやるための会議になっていました。福祉21のふりかえりのところにも書いてありますが、行政と住民が上手く繋がっていないことがあり、先ほどの市長のお言葉の中に「市民の声がまちづくりに反映していく」ということが、行政と市民がパートナーを組んでまちづくりができると考えた時に、職員の意識もどうだろうと疑問があります。職員も一住民だと思いますので、上から目線でなく、もう少し住民の声を聞いて、パートナーのまちづくりをして欲しいと思っています。その辺もこの計画を早く立てなくてはいけないのではなく、もう少しみんなの声を聞いて計画を立てていただきたいと願っております。

委員

今の意見とも関係がありますが、この職員のアンケート結果や分野別のふりかえりを見ると、相当根深いものがある、それは行政と市民のパートナーシップに対する行政と市民等の役割とか、どういった関係を作っていけば良いか迷っており、そこに危機感を持ってやっていかないと、このまま第1、第2ステージをやったから少し改善すればやっていけるという訳にはいかないのではないのでしょうか。アドバイザーの原田先生もおっしゃっていましたが、全国のいろいろなところでパートナーシップを進めていても、大変で結局止めてしまう所が多く、必ず壁にぶち当たります。第3ステージを全て並行してやるとどんどん広がって行って時間もかかります。パートナーシップを考えた時にもう少し何かやり方を考えて、行政と市民の役割を今までの課題を見ながら新しいものを作り出さないと難しいのかなと思います。今回のふりかえりをしながら考えるのは良いのですが、資料を見ると今までの所に何か付け足せば上手くいくようにも取れます。どのくらいの危機感を持っているのか。行政のアンケートを見ると、職員はパートナーシップに危機感を持っているように思いましたが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

事務局

職員のパートナーシップに対する想いは、当初立ち上がった20年前はパートナーシップの関係が築かれていたと思いますが、20年経ってそれがどのような状況になっているかと言うと、私個人の意見ですが、パートナーシップにはレベルがあり、まず協働にやっていくゼロベースの真のパートナーシップ、少しレベルが下がると市民のご意見を聞いたというアリバイ作りの様なパートナーシップ、更にレベルが下がると行政が市民をコントロールする操り的なパートナーシップと、色々な7段階のレベルがあるそうです。今は真のパートナーシップにはなっていないと思います。市民の方との信頼関係が築けて、言いたいことが言える関係ではなく、どちらかと言うと何かアリバイ作りに近いレベルになってきていると思います。他の自治体ではそういった状況の中で止ってきていると思います。茅野市では元々真のパートナーシップを目指していた訳ですから、

やはりしっかりと仕切り直しをする必要があると考えています。この会議の中で膿をしっかりと出していただいて、改めるべきは改めるところから始められれば良いかと思えます。

委員

行政の方の覚悟もいるかもしれませんが、市民としても言えば言うほど会議が増えて、自分の首を絞めている状態になるので、やらない方が良いと思うときがあります。しかし、このパートナーシップの活動に長く係わっていてふりかえったときに、最初は課題を市民と行政と一緒に協議をして、どうなりたいかも一緒に協議することから始まりました。それを共有した上でお互い何をすれば良いか考えていたのですが、10年、20年経つとパートナーシップという名前だから行政が何を、市民が何をと単なる役割分担になってきているように感じます。茅野市の場合はパートナーシップのまちづくりを、生涯学習の点から発展してこの形になったので、もっと時間をかけてじっくり話し合うべきではないかとか、いろんな人の意見を聞きたいという市民の声があるというのは凄いことであると思うので、そういう人達が増えていくことが、本当のパートナーシップの目的、人づくりになると思いますので、是非時間をかけてやっていただきたいと思っています。

委員

皆さんのお話を伺っていて、他の委員さん達も同じ想い、疑問を持っていると痛感しました。というのも今年の3月26日に茅野市の文化芸術振興計画を30年度に向けて作るということで、それを策定される前にこの地域で文化活動している方の声を集めようじゃないかということで、各団体に働きかけて集まっていたのですが、生涯学習課の方から計画の説明をしていただいたのですが、その際に集まってきていただいた方達から、もっと自分達の声を聞いて欲しいと言う意見がたくさん出まして、私達の目指していた横の繋がりを作ってもっと情報共有していこうという話に至りませんでした。30年度に向けて他の所でも策定が進んでいるようですが、凄く帳尻を合わせるためにもものすごく駆け足で、何らかの形を作ろうという風にしか見えません。ゆっくりと時間をかけていろんな方達の話聞くというのも、これからの茅野市の10年後、20年後、子供達が大きく成長していくなかで大切なことだと思うのですが、もしかしたら、今慌て過ぎているような気がしています。皆さんどうでしょうか。

委員

ここに一方的に押し付けと書いてありますが、その意味は、例えば美サイクル茅野にはお金がかかるということがあり辞めたいという意見が最初にあり、その理由をきちんと美サイクル茅野や実際にやっている方に言っていただければ納得もいきますが、お金がかかるから辞めた方が良いとだけ先に報道に出されてしまい、一般市民から見れば辞めるんだということが何回もあり、私達の方も意見をしたのですが、はい一応聞きました、でもやることは前と変わりませんみたいなことが多くて、パートナーシップになっていないと美サイクル茅野の方では思っています。パートナーシップというのは住民にもきちんと意味が分かって進めていかなければ、一方的に辞めると言われても、いきさつがあり目的があって始めたのにもかかわらず、反対され辞めてしまうというのは腰を折られた一方的な押し付けになってしまっているのです、その辺をもう少し話し合いをして、本当の意味のパートナーシップを住民の方にも考えて欲しいと痛感しています。

小池市民環境
部長

今おっしゃられたように、しっかりとお話をするという部分で不足していたというのはご指摘のとおりだと思います。今のお話がどの部分であったかを想像しているのですが、例えば各地区の分別収集に対する従量割を廃止したことや、ちの地区を中心に行っていた生ゴミの収集のお話もございました。これにつきましては長い間試行実施をしてきている中で、経費との関係の中で行政側の思いもありお話をさせていただきましたが、その方向がありきと言うことはいけなかったと、もっと市民の皆様とお話をしながら歩調を合わせてやっていくことが重要で、拙速だったと、ご指摘のとおりだと思います。生ゴミの件につきましては、その反省も踏まえて地元の方と話をさせていただき、納得いただいて試行の中止の方向性を出させていただきました。ただそのときに、美サイクル茅野の方の中にはどうしても続けていきたいという想いがあることは、承知しています。そこを一方的に役所の方で決めた訳ではなく、色々な方と話し合いを進める中で決めさせていただきましたが、その部分が十分であったかということについては、反省しなければならないと思っています。

副会長

今までのお話を聞いていると、この日程でやっても無理があり、やっても結論は出ないと思います。年5回が多いか少ないかは別として、今出たご意見はかなり切実でしたので、そこを行政と擦り合わせて、想いをぶつけて進めるような方策を考えた方が良くと思います。あまり結果ばかり同じ様なことをしても成果は上がらないので、今までになく意見が出たと思いますので、次回にもう少しまとめて、擦り合わせていってはいかがでしょうか。

会長

ありがとうございます。皆さんから出た意見はそのとおりだと思います。私の立場から言うと第5次の総合計画は作っていかなくてはいけない。しかし、3月までに作らなくてはいけないとは思っていません。作るのであれば良い計画を作りたいですし、必要な時間はかけていきたい。ただ、むやみにゆったりする必要もないかと思えます。そこも踏まえて進めていきたいと思えます。次回は8月22日ということですが、もう少し全体の話をしてグループ別に入った方が良いのか、グループ別の中でその部分に入っていった方が良いのか、どちらが良いでしょうか。

委員

運協の方は8月、9月に会議がありますが、ここにいるメンバーの方が改めて情報を持って集まるということはありません。ですので、特に運協の方は今日ここで話せることしか次回も話せないと思えます。それぞれスケジュールを持っておられると思えますけれども、8月、9月に運協の会長さんの中で、各運協の話をまとめて次の会議に話せる材料を持って語れる方はいらっしゃいますか。運協とは何かとか、運協で何ができるかということについて、今日語れなくては次回の会議でも語れないと思えます。

会長

そうでもないと思えます。今日はそこまでの意見をいただいた訳ではありませんし、これから先の運協の動きは横並びでなくて良いと思えます。少なくとも運協の会長の皆さんにも進捗の度合いが違ってくことをよしとってもらう議論をしていただきたいと思います。逆に「運協で何ができるか」から考えていくと、「運協とは何か？」を導きだせるかと思えます。各地区によって取組方が違

	<p>って良いと私は思います。そのような議論から入っていけば話も進んでいくか と思います。ですので、今日以上の話が出ないということはないと私は思いま す。</p>
委員	<p>運協の会長さんは今年に入って半年やっておられるので、運協とは何かとい う命題とか、運協で何ができるのかということを持ち出されると逆に引き戻さ れる、今何も分かっていない烏合の衆がいるなかで自分らがここに置かれてい るんだみたいなイメージで、逆に先に進むのではなく引き戻されるようなイメ ージがあったので、先ほどああいう言い方をしました。むしろやらなくて、秋と か冬になってから、今年1年の報告をしてもらって、各地区の様子も知るこ とができる中で、さらに何ができるのかということが出てくると思います。この時 点でスタート時点に引き戻されるような命題のあり方がどうかと思います。</p>
会長	<p>命題が気に入らないという部分も参考に、何を議論していくかは今の意見も 含めて、運協の持つ課題と分野別さんとは違う部分もありますので、グループ別 にもう少し深めていくことでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>今回はグループで良いと思います。今日これだけ集まっても市側の意見 としては回答するだけになりますし、パートナーとしてやっている担当職員 の方や部課長さんと実際のところの話は小グループでないとできないと思いま す。ただ、ここに載ったテーマでやるとまた同じで、市が作ったレールに乗るこ とになるので、そこで踏み込んだテーマで議論させてもらい、時間がかかったり 違う話になるかもしれませんが、それでも良いのであれば小グループが良いか と思います。</p>
副会長	<p>グループというのが曖昧ですが、まず分野別と地区運協で分けてありますが、 分野も更に細かく分かれて話をするのか、分野別の人達だけで共通の話題を議 論していくのでしょうか。</p>
事務局	<p>案としましては、ふりかえりは分野毎の担当者、関係者で集まって7人くらい のグループで議論する方が議論しやすいと想定しております。あくまでも案で すので、分野別も大グループでランダムに福祉も環境もごちゃ混ぜにやるのが いいのか、個別のグループにするのがいいのかはこれからの議論になります。</p>
会長	<p>事務局で想定しているのは、福祉なら福祉、2人プラスもう少し関係する方 に入っただき、市の職員も入り6・7人のなかで福祉は福祉、環境は環境、ど んぐりはどんぐりという形で5グループくらい。運協さんの方は。</p>
事務局	<p>運協さんは3地区ほどで集まっただき、他の地区のことも知りながら議 論していただきたいと思います。</p>
委員	<p>分野毎でまとまってやるのであれば、わざわざ全員この日にやらなくても良 いかと思います。正副幹事会がどんぐりのなかにもあって正副代表幹事が5人 と事務局の人が入って話ができますので、同じ日にわざわざやる必要もない気 がします。</p>

委員	<p>わざわざ集まらなくても普段からやれると思います。もっと共通な部分でのパートナーシップの話合いということであれば、分野別を取り払ってやった方が良いかと思います。地区コミュニティの場合、もっと深いところで市民と行政がどうパートナーシップを作るかは信頼関係も含めて共通かと思います。</p>
福島市民活動 参与	<p>このプランについて相当練ってきたのですが、今お話があったようにグループ分けをするときにパートナーシップのまちづくりを一つのテーマとして考えた時に、各分野、コミュニティ運協合わせた中で一緒に話合って茅野市のパートナーシップをどのようにしていくか議論する方法と、もう一つは活動も含めたふりかえりと今後の動きを行政と市民が一緒になって考えるという部分ですと、グループを分野別あるいは運協さんに分かれるということです。相当議論してきていますので、皆さんが求める今後10年間の茅野市のパートナーシップのあり方を考えていくのか、自分達の活動を中心に考えてそこをパートナーシップの手法でどうすれば良いか、この二つの方法でグループが変わりますので、今ここで話をさせていただきたいと思います。</p>
副会長	<p>各分野で違うと思いますがいかがでしょうか。行政と密に話していない所と、常に行政と話している所があると思います。もっと行政と話したい所は良い機会かと思いますが、日頃やっている所は改めてやることはないかと思います。</p>
柿澤企画部長	<p>活動も含めて各分野で検討するとなると、それぞれの個別計画の策定の話に入りますので、それはこの推進会議では違うかと思います。パートナーシップのまちづくりのあり方、総合計画の基本構想、まちづくりの市民協働の考え方についてやっているの、分野毎ではなく一緒に分野全体で入っていただいて検討する方が、市民協働の今後の方向性を検討する上では良いかと考えます。</p>
委員	<p>私もそう思います。個別に話をすると個々の関心にフォーカスしてしまい意味がないかと思います。集まって話をしているので、市や自分達の環境をどうしたいのかにフォーカスすべきだと思います。政策提言の方向性というか我々は単に落ちてきた仕事や目に見えるところの仕事にフォーカスするのではなく、どうしたいのかということに共通の目的、あるいは方向性を言うことに意味があると思います。違う関心を持っていてもグループで集まって、どうしたいのか大まかな方向を持ってそれに向けてリーダーシップを有効に使っていく方向に話をもっていけば良いかと思います。</p>
委員	<p>初めて来て勉強させていただいております。今話を聞きましてすっかりしました。やはり問題解決の話ですので、自分達のありたい姿を描いて、そのためにはどんな状態になれば良いかを描かなくてはいけない。そのために現状把握すると困っていることが分かりますので、今あれもこれも市民の言うことを全部しようとする無理がありますので、重点を絞って数値データ化をして、現状とのギャップを市民全体、地区全体、行政全体でやれば良いかと思います。昨日資料を読んでいましたが、重み付けができないと頭の中が整理できません。もっとグラフ化するか整理すると、みんながすっかりして分かり易いかなと思います。あるべき姿を議論し、現状とのギャップを埋めていく他にないと思いま</p>

会長	<p>す。その問題解決を議論すると、夢や希望も出てきて楽しいです。そのグループワークも専門家の方もいらっしゃると思いますが、上手く進めていかないと時間だけかかって結果が出にくいかなと思います。重点を絞って、いろんな分野から集まっていたら議論していくと意見も活発化できると思います。本音でぶつかれるようなグループワークが必要かと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。次回の8月22日は委員さんにお集まりいただきまして、運協さんと分野別ではテーマが違って来る気がしますので、その中でもう少し深堀をして取組の方向を決めていきたいと思っています。</p>
福島市民活動 参与	<p>今皆さんの話を聞きまして、グループ分けですが運協の方も分野別の方も一緒にランダムにグループを作って、お話のあった様にありたい姿・あるべき姿を描くために、現状把握と今後どうしていくかと言うプログラムにしていくと良いかと思います。今の案には運協さんと分野別の方を分けていますが全部一緒にしていくことと、できましたら委員さんだけでなく、各会から参加できる方をお連れしていただけますと、もっと多くの方の意見が反映できますので、その辺りもお願いしたいと思っています。</p>
柿澤企画部長	<p>福島さんの提案に口を挟むようで申し訳ないのですが、今日の会議の中では、やはり分野別において市民の皆さんと市の職員との合意形成の取り方が上手くいかないと出ましたし、地区コミュニティ運協の皆さんと市の職員とまちづくりを進めていく上での合意の取り方も上手く取れているのか、そこが一番課題かと思っています。そうすると分野別の市民活動団体の市民の皆さんと市の職員との合意の取り方と、地区コミュニティ運協を通して市の職員と皆さんとのまちづくりの合意の取り方を一緒にして議論して良いのか、分野別と地区は分けた方が整理しやすいのかと思いますのでお話をさせていただきたいと思っています。</p>
副会長	<p>おっしゃられたとおりに分けた方が良いと思います。具体的な話になると各分野別から2名以上出せと言われても分野別によっては難しいかと思っています。運協も大変かと思っていますので、次回の2名以上というのは止めていただいて、分けてやって良いかと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。いずれにしても、必要な時間はかけて議論をして形作っていききたいと思います。次回は今日出た意見により分野別も2班ぐらいに分けてということは良いと思います。その当たりをもう少し検討させていただいて、そもそも論の所を掘り下げて方向を出して行ければと思います。運協さんの方はこの間懇談会もさせていただき、他の地区を分かっていたら、このような具体的なことをやっていくことで地区の方への理解を得られるような議論が必要かと思っています。こういったテーマで話をすれば良いのか相談させていただきますので、8月22日で日程を組んでいただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>8月22日は良いのですが、それ以降の9月以降の日程も決まりなのでしょうか。進め方の案にはなっていますが、このままのスケジュールで行くのでしょうか。</p>

事務局	<p>あくまでも案です。たたき台としてお示しさせていただきました。次回の推進会議の議論によって変わってくるかと思しますので、第3回以降は保留とさせていただきます。</p>
会長	<p>今回は8月22日ということで、予定を組んでいただきたいと思います。内容等につきましては再度検討させていただいて、場合によっては皆さんにご理解をいただく中で進めていきたいと思しますので、よろしくお願いします。</p>
牛山市民活動センター長 委員	<p>(4) その他 <まちづくり講座について説明></p> <p>お願いですが、資料2と資料4に関する所で、分野別の市民活動団体が思っている課題の内容と、資料4における市役所職員の実態調査における課題の共通点が非常に多く、成果と言われているページ数と課題と言われているページ数の差、もしくは項目、行数を比べると圧倒的に課題とされている方が多いようです。市役所職員の中にパートナーシップの手法に係る部署の方々の割合、もしくはそう思っている方々の数値的な表現をデータとして出していただけるとでしょうか。もしそのような資料があれば提示していただきたいと思います。</p>
会長	<p>参考にどのような資料を提示できるか検討させていただきます。その他はよろしいでしょうか。</p> <p>今日は全員に発言をしていただくことができなかつたことをお詫び申しまして、進行を終わらせていただきます。</p>
	<p>6 閉会 (午後9時25分)</p>